



高等部 学部授業研究会実施

高等部2年の職業科で学部授業研究会が行われました。今回は、当日の様子を中心にお伝えします。

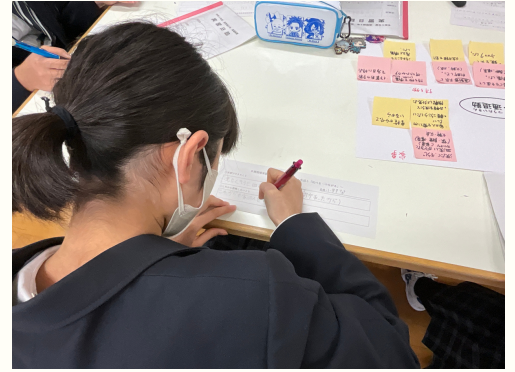
高等部2年 II期現場実習事後学習 ～I期実習・生活と「比べる・つなげる」～



＜授業者のしかけ＞
「できたこと」を伝え合う目的①
～自分の経験を言語化する～



＜生徒の様子＞
・実習明け初日で、自分ができていたこと、取り組んでいたことが漠然としている生徒もいたが、自分の言葉で説明する機会をもつことで、実習を具体的に振り返ると共に、友達と共有することで「できた」という達成感を得ていた。



＜授業者のしかけ＞
「できたこと」を伝え合う目的②
～「働くために必要な力」に気付くために～



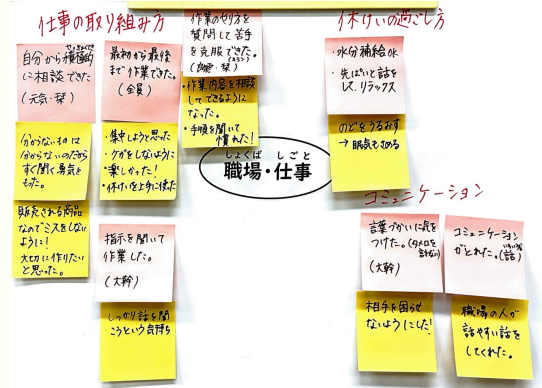
＜生徒の様子＞
・教師が課題点を指摘するよりも、友達の頑張りは刺激になる。「友達ができたこと」は「働くために必要だから取り組んだこと」として捉えるよう、話し合いの中でも「働く力」をキーワードとして教師が取り上げたことで課題意識をもって友達の話を聞いていた。



＜授業者のしかけ＞
KJ法で話合う
～「できた理由」は他にもつながる～



＜生徒の様子＞
・体調管理のために早く寝たことと、路線バスで通勤できたことを「時間を守る」というキーワードでつなげた。職場だけでなく家での生活でも「時間を守らなければならない」と意識できた。



＜授業者のしかけ＞
振り返りの発表
～「できたこと」から「挑戦」～



＜生徒の様子＞
・課題意識をもって友達の話を聞いていたか、自分事として考えて改善していこうとしたかが評価できるように、振り返りはできたことだけでなく、挑戦したいことを含めて発表するように設定した。自分にできそうなことを考え、発表する姿が見られた。

【家庭・生活】

II期現場実習事後学習 ～I期実習・生活と「比べる・つなげる」～

○実習のできたこと 名前

洗たくそうじ、皿洗いなどができた。(時間があつたから)

○これから挑戦したいこと

これから家の人も少しでも早く(早く)させたい。(大変さやいそがしさ)

洗たくもの下下りのあてつたい。

【仕事・職場】

II期現場実習事後学習 ～I期実習・生活と「比べる・つなげる」～

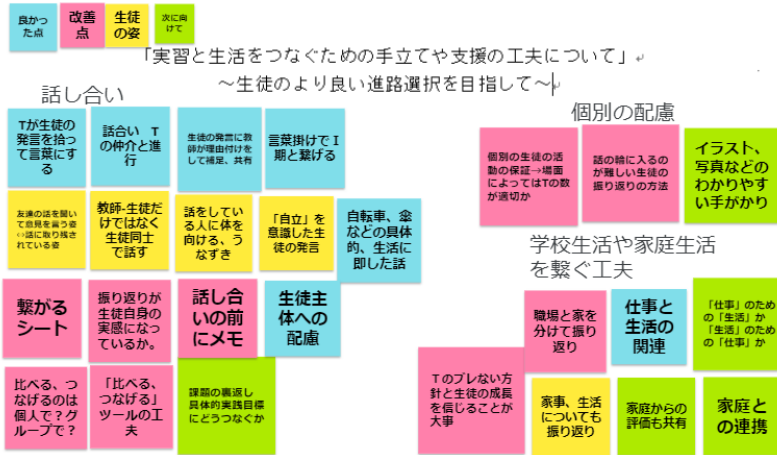
○実習のできたこと 名前

分がらないことがあつたら自分から聞いて、仕事に又取り組むことができた。

○これから挑戦したいこと

作業の時だけでなく、聞いて必要なことはメモをする。(メモ帳を持ち歩く)

実習と生活をつなぐための手立てや支援の工夫について～生徒のより良い進路選択を目指して～



【協議で話題になった主な内容】

- ・ 実習を経てこんなことを頑張った、こんなことを頑張りたいということが共有できていた。
- ・ 教師が主導で話し合いを進めていたが、生徒に任せられる部分もあるのではないかと。
- ・ 話し合いのテーマを明確にすることも必要ではないかと。

【今後に向けて】

- ・ 実習の10日間が特別なのではなくて、振り返って考えたことをどのように普段の生活につなげていくかが重要である。
- ・ 話し合いの焦点がブレてしまう部分があった。今後、挑戦したいこと、課題とは何か考えられるようにしたい。
- ・ 「つなぐ、比べる」で般化が難しい部分があった。つなぎ方を今後工夫できたらよい。

講評 秋田大学教育文化学部 教授 前原 和明先生

【講評】

- ・ 今回の授業が実習後に「言語化」し、「目標」という形に、「成形」していくことを目指して行われることで、生徒に非常に重要なステップを提供していると感じた。
- ・ 知的障害のある生徒は「言語化」することの難しさや思考の狭さから自分の経験の中だけで完結することがある。教師が言葉にして「言語化」を助け、グループによって多様な思考を補っていくという工夫がされていた。グループで話し合い、他の生徒との関わりの中で様々なアイデアが生み出されると感じた。
- ・ 「職業準備性」というのは、個人の中に職業生活を始めるための必要な条件で、「社会参加型福祉」とも言われる。準備すべき条件として四つの階層があり、職務の遂行（作業の正確さ、スピード）、職業の生活の遂行（挨拶、コミュニケーション、ルールの理解）、日常生活の遂行（余暇、金銭管理）疾病障害の管理（通院、服薬、栄養、衛生管理）がピラミッド構造で構成されている。仕事を継続する上で四つのバランスが大切。バランスが悪いと社会参加が難しくなる。そのために、本時の授業でもあがったライフスキルが非常に重要である。
- ・ 「自己理解」で気を付けることは、「自己理解ができていないから就職できない」というようにできないことの原因にされている場合があること。自己理解の支援を通じて自分自身を「対象」と見て、分析できることを目指して、職場や社会に求めたい「合理的配慮」とは何かを考えていくことが必要である。また次のステップに向けて「訓練」して身に付けたいことや、どんな支援や手助けが必要か明らかにすることで本人の自己有用感につながる。
- ・ 本時の授業のグループワークについて、問題解決のためのスキルを身に付けること、練習していくことは大切なことである。生徒自身が自分の経験を振り返り、次の目標を考える、そして何らかの取組をしていく、その際に一人で全てやるのではなく、他者や友達、支援者と一緒に取り組みながらいくプロセスは非常に重要である。
- ・ 「できない」と「知らない」は違う。「できない」ではなく「やり方が分からない」のかもしれない。うまく周りに助けを求め、依存しながら、一人でできる部分はやっていくことが大切である。卒業生同士が集まり、問題解決の話し合いができれば、非常に嬉しいことだと思う。

